

入試年度	2025	入試方式	一般（秋季）	課程	博士前期
研究科	文学	専攻	史学	領域（分野）	西洋史学
出題のねらい					
<p>IA：ローマ帝国支配下のガリアについて述べた研究文献を読み、その内容に自身の知識も加えて解答する問題です。単に英語力を試されているのではなく、自身もどれほど知識を有しているのかが問われています。</p> <p>IB：中世ヨーロッパの人口動態について述べた英語文献を題材に、学術文献の英語を正確に理解し、とくに著者が結論の根拠を示す記述を的確にとらえてまとめられるかどうかを問うています。</p> <p>IC：課題文は、第二次世界大戦中、ドイツによってフランスが支配されていた時期に、フランス社会で何が起こっていたのかを示す公文書が、徐々に公開されつつあることを述べています。こうした文意を正確に読み取り、関連する、自分の持つ知識を結び付けて考察を行うことができるか、を試すことがねらいです。</p> <p>IIA：西洋古代史についての基礎知識を問うのがねらいです。(1)では、スパルタという、古代ギリシア史を学ぶにあたり、必ず知っていなければならないポリスについての出題です。(2)は、ポエニ戦争という、古代ローマの領域拡大を理解するにあたって、必ず知っていなければならない戦争についての出題です。</p> <p>IIB：(1)は中世イギリス史の転換点ともいえる「ノルマン征服」について、(2)は近世フランスにおける宗教戦争である「ユグノー戦争」について、それぞれ概要と歴史的意義を説明できるかどうかを問うています。</p> <p>IIC(1)：プロイセン＝フランス戦争に関して、それがドイツという新たな国民国家を誕生させ、国民国家としてのフランスが国主権を安定させる契機となったことを論じてほしい、と思います。</p> <p>IIC(2)：第二次世界大戦を挟んで、ド・ゴールという軍人・政治家が、現代に至るフランス国家の枠組みの形成にどのような貢献をなしたのかを、論じてほしいと思います。</p>					
解答・解答例または採点時の評価ポイント					
<p>IA：西洋古代史に関する用語を適切に訳すことができるのか、また、自身の知識を、研究文献から読み取った内容とうまく組み合わせることができるのか、が評価のポイントです。</p> <p>IB：(1)(2)とも、著者が下線部のように述べる理由を、それに続く文で説明しています。その英文を正確に理解して、要点をうまくまとめられるかがポイントです。</p> <p>IC：設問(1)については、西洋現代史に関する知識を前提にして、課題文の趣旨を正確に読み取り、和訳をすることがポイントです。設問(2)については、課題文を参照しながら、それと関連付ける形で、ヴィシー政府の顛末について主要な情報を提示し、バランスよくまとめることがポイントです。</p> <p>IIA(1)：古代ギリシア史の基本的流れをおさえ、スパルタと結びつけて説明できるかがポイントです。ヘレニズム期やローマ期にもふれられるとなおよいです。</p> <p>IIA(2)：ローマとカルタゴの対立の流れを、第1次から第2次までスムーズに説明できるかがポイントです。第3次についてもふれられるとなおよいです。</p> <p>IIB(1)：「ノルマン」の指示内容を説明した上で、征服の経緯とその後の歴史に与えた影響について詳述できるかがポイントです。</p> <p>IIB(2)：「ユグノー」の定義を説明した上で、戦争の経緯とその後の歴史に与えた影響について詳しく論じられるかがポイントです。</p> <p>IIC(1)：プロイセン・フランスが対立するのに至った背景、開戦から終戦に至る経緯、戦争の結果が何をもたらしたのか、などが説明のポイントです。</p> <p>IIC(2)：第二次世界大戦前のド・ゴールの軍人としての経歴、同大戦中の彼の政治上・軍事上の活動、第五共和政期の大統領としての彼のリーダーシップ、などが説明のポイントです。</p>					